

福島県立会津支援学校竹田校

令和4年度 校内研究

「『わかった』『できた』授業のさらなる充実に向けて」(1年次)

～ICTの効果的な活用を通して～



教務部 研修係

研究主題

「『わかった』『できた』授業のさらなる充実にむけて(1年次)」

～ICTの効果的な活用を通して～

1 主題設定の理由

本校は病弱の特別支援学校であり、小・中学校に準ずる教育課程を編成し一人ひとりの病気の状態や障がいの特性、発達段階に応じて指導内容の精選や指導方法の工夫をしながら、日々各教科等の授業を展開している。

本校の児童生徒は、病気の状態や程度によって学習時間に制限があることや生活経験が少ないために、基礎的・基本的な知識・技能の習得や情報活用能力の定着が十分ではない。そのため、自分で思考したり、判断したり、表現したりすることが難しいことが課題としてあげられる。また、病気や障がいの多様化に伴い、様々な理由で登校することが困難な児童生徒もおり、十分な学習時間を確保することが難しいことも課題としてあげられる。

これらの課題を解決するためには、基礎的・基本的な知識・技能や思考力、判断力、表現力、主体的に学習に取り組む力を児童生徒それぞれに合った学習形態、方法、内容で学ばせながら、育成していく必要がある。これまでも、児童生徒一人ひとりの特性を把握し、具体的な指導方法を考え確認することを通して、児童生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業づくりに取り組んできた。また、対面で学習を行うことが難しい児童生徒については、定期的に課題を出したり、ICTを活用してオンラインで授業への参加を促したりと各教員が工夫をして、可能な限り学習の保障に取り組んでいるところである。

このように多様な児童生徒に対し、本校では「わかった」「できた」という視点から個に応じた指導を行ってきたが、これは、新学習指導要領において一層重視されたものでもある。また、昨今の学校教育において個に応じた指導をより充実させるために、これまでの教育実践に加え、ICTの活用が求められている。そこで、本研究では、児童生徒が、それぞれにより合った学び方で基礎的・基本的な知識・技能や思考力、判断力、表現力、主体的に学習に取り組む力を身につけ、向上させる一つの手立てとして、ICTを活用しながらの授業づくりに取り組む。

ICTの効果的な活用を確実に行うためには、各教員がICT機器の種類や機能、使い方について十分に理解する必要がある。そのため、まずは、ICT機器の基本的な使い方に関する研修や各教科等でのICT活用の実践例などについて情報交換を行い、教員のスキルアップを目指す。その上で、ICTを活用した授業づくりのPDCAに取り組み、全体研修等でその成果と課題について情報共有を行うことで、ICTの効果的な活用法について検討する。このような研修を通して、これまでの指導形態や指導方法、内容に加え、より多様な指導の在り方を見出すことで、どのような実態の児童生徒に対しても「わかった」「できた」を実感できる授業を展開することができるのではないかと考える。

2 研究の目的

- (1) ICT の効果的な活用を意識しながら教員が指導形態や指導方法、内容を十分に考えることで、一人ひとりにより合った学び方を見出し、児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得や、思考力、判断力、表現力や主体的に学習に取り組む力の育成を目指す。
- (2) ICT を活用することを通して、教員が指導形態や指導方法、内容に関して新たな視点を持ち、授業改善を行っていくことで、教員各自の授業力の向上につなげる。

3 研究仮説

教員が指導形態や指導方法、内容を十分に考え、ICT を効果的に活用することで児童生徒はそれぞれにより合った学び方で基礎的・基本的な知識・技能を習得し、思考、判断、表現する力、主体的に学習に取り組む力を向上させることができるのではないか。

4 研究の方法

- (1) ICT 機器の種類や機能、使い方についての研修やこれまでの各教科等での ICT 活用の実践例の情報共有を行い、各教科の授業での活用方法について検討する。
- (2) 検討した内容を基に随時授業を行い、その様子について各自記録する。
- (3) (2) を基に全体研修において ICT のより効果的な活用の仕方について協議・検討を行う。
- (4) 今年度の取り組みについてまとめ、教員全員で共有する。

5 研究日程

学期	研究内容
1 学期	○今年度の校内研究についてのニーズの把握 ○学部会等での児童生徒の実態及び教育的ニーズの把握 ○全体研修 (ICT の活用状況についての情報交換、ICT 機器の活用方法について①)
2 学期	○全体研修 (ICT 機器の活用方法について②、③) ○ICT を活用した授業づくり、実践 (随時)
3 学期	○全体研修 (研究報告会) ・研究のまとめ ・次年度の校内研究の方向性の検討

6 その他

- ・授業を参観する場合は、時間調整を行い、希望者が参観できるようにする。